

海のいのち

立松 和平

めあて

太一とおとうの人物像を読み取ろう。

父もその父も、その先ずつと顔も知らない父親たちが住んでいた海に、太一もまた住んでいた。

太一の絵 (71 ページ挿絵) のコピー

- ・「おとうといっしょに海に出るんだ。」
- 父のことが大好き
- 父を尊敬している
- ・父の死
- 父のかたきをうちたい
- 父のような漁師になりたい

おとうの絵 (73 ページ挿絵) のコピー

- ・だれももぐれない瀬にもぐるもぐり漁師
- ・ニメートルもある大物をしとめても自まんすることもない
- ・「海のめぐみだからなあ。」



すゝいもぐり漁師
海に感謝している漁師

3 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート：③

活動のねらい

「起」の部分を読み、太一やおとうの人物像を読み取ることができるようになる。

1 本時の見通しをもつ。

- めあてを知り、太一とおとうの人物像をとらえることを確認する。

2 本文冒頭から七十三ページ十三行目まで（「起の部分」）を読み、太一やおとうについて読み取る。

- ① 物語の冒頭の段落を読む。
- 一文目の意味について簡単に考えさせる。
- * 物語の冒頭には、場面や登場人物の設定が書かれていることが多く、意識して読ませるようになります。また、物語の展開やクライマックス、結末などに大きくかわる「しかけ」が含まれていることもよくあります。「海のいのち」では〈父〉〈住んでいた海〉といった言葉が物語の主題に大きくかかわっているキーワードとなっています。これまでの学習で「しかけ」などを十分に理解していない場合は、ここはいつもどおりに読ませておき、学習を進めていく中で、重要な役割をもった文や言葉が物語の冒頭に書かれていることに気付かせるようにしていくとよいでしょう。
- ② 太一とおとうの人物像が分かる根拠となる部分に線を引きながら読む。
- ③ 線を引いた部分からそれぞれの人物像について想像できることを、ワークシートに記入する。

【発問】おとうはどんな漁師ですか。

- 本文の記述から考えられる人物像について発表させる。

【発問】太一はどんな思いをもった子どもですか。

- 会話文や父の死から、太一の心情や「起」の部分における主人公の人物像について考えさせる。

評価 太一やおとうの人物像を読み取り、「起」の部分の物語文における役割を考えることができる。

3 学習を振り返り、自己評価をする。